



洋上アルプス

No.253 平成28年4月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



第2回 科学委員会を開催

(3月5日)

鹿児島市の天文館ビジョンホールにおいて、平成27年度第2回世界遺産地域科学委員会が開催されました。今回は①平成27・28年度モニタリング調査の概要②世界遺産地域の適正な利用③ヤクシカWGの取組状況などを主な議題に活発な意見が出されました。

【モニタリング調査の概要】

環境省から、利用に関するモニタリングとして①特異な自然景観資源の現況②登山道周辺の荒廃状況、植生変化③主要山岳部における登山者数④携帯トイレ利用者数⑤レクリエーション利用や観光業の実態など経年変化の状況と併せ報告されました。

続いて九州森林管理局から①屋久島北部地域の垂直方向植生モニタリング調査②高層湿原における植生分布状況等に関する調査③外来種アブラギリの追跡調査④縄文杉ケーブルリングの点検結果⑤遺伝子錯乱調査の概要を説明。高層湿原「花之江河」については、マルチヘリコプターを活用した空撮ビデオにより湿原の現況を説明。陸地化が進行する高層湿原（写真2）の今後の対応や、ヤクシカによる世界遺産地域への影響について議論が交わされました。また、平成28年度新規調査では、高塚山の植生衰退箇所の原因調査を実施することが報告されました。

【世界遺産地域の適正な利用】

環境省から縄文杉周辺の再整備について、新展望デッキの4月供用開始と平成28年度設置が計画されている南デッキの代替展望デッキや歩道の浸食が進む永田歩道の整備等について説明がありました。

また、町からは、3月20日拡張登録が発表された屋久島・口永良部島ユネスコエコパークについて説明がありました。

【ヤクシカワーキンググループの取組状況】

ヤクシカの生息頭数については、24年度から4年続けて約5千頭の捕獲が見込まれることから、当初の予想頭数（2万頭）を超えるシカが生息していると考えられます。

ふんりゅう

一方、県の糞粒調査では半数以上の地点で糞が半減しており初めて個体数が減っている可能性があるという報告がありました。

また、シャープシューティング・囲いわな等、山岳部や西部地域における捕獲方法や猟友会との連携について議論が交わされました。



写真1 第2回科学委員会の様子



写真2 湿原「小花之江河」の変化

上：平成18年11月

中：平成22年11月

下：平成27年11月

第2回ヤクシカWGを開催 (3月4日)



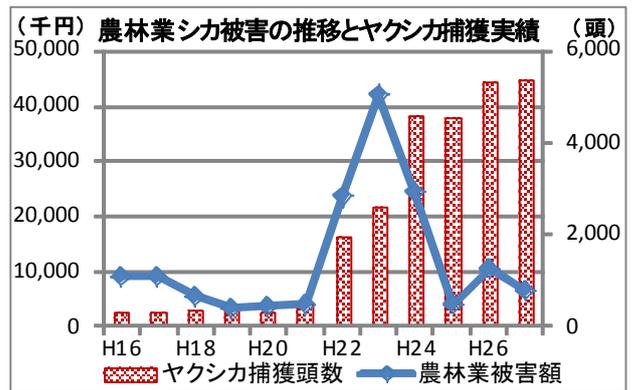
写真1 会議の様子

科学委員会前日に鹿児島県庁で開催された当会議では、①前回会議の概要

② H27 年のヤクシカの生息、被害、捕獲状況③これまでの取りまとめ④H27 関係機関のヤクシカ

対策取組み状況⑤今後のヤクシカ対策について意見が交わされました (右図 H27 は実績見込み)。

特に今回は、3 年間のヤクシカ個体数調整中長期計画 (素案) の作成や導入を検討中のシャープシューティング、西部地域計画捕獲の提案がありました。



レクリエーションの森の充実にむけて (3月25日)

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の総会が屋久島離島開発総合センターにおいて開催されました。

総会では屋久島自然休養林と大川の滝ほか2 風景林を含む「レクリエーションの森」における平成27・28年度活動計画案、補正予算を含む一般及び特別会計予算案等が審議されました。

また、ヤクスギランドおよび白谷雲水峡2 地区の併用協力金に係わる平成28年4月からの取扱変更を含む協力金設定額の改定や、紀元杉上部に位置するモミ巨木の安全対策についての関係機関への要望書提出の確認が行われました。

人の動き

4月1日付転入
 ○生態系管理指導官
 渡邊 昭博 (西表森林生態系保全センター 自然再生指導官)
 4月1日付転出
 ○大分西部森林管理署 院内森林事務所 地域統括森林官
 坂梨 哲章 (生態系管理指導官)

平成28年度 屋久島森林生態系保全センター 業務予定

1 森林生態系保護

(1) 地域連携推進等対策

① 天然生林管理水準確保《森林保護員 (GSS) による巡視等》

- ・森林保護員によるきめ細かな保護管理等
- ・入込利用者への指導・啓発

② 縄文杉木製デッキの撤去、資材搬出等

- ・環境省が予定している縄文杉南側デッキ (林野庁設置) の代替デッキ工事に伴うデッキの解体、撤去

(2) 保護林等整備・保全対策 (世界遺産保全 (登録地域・暫定地域保全))

- ① 屋久杉の樹勢回復措置 (縄文杉ほか著名杉)
- ② 生態系モニタリング調査 (垂直分布調査ほか)
- ③ 外来種アブラギリの被害状況モニタリング及びその他外来種の進入状況把握 (他機関との連携強化)
- ④ マツクイムシ被害状況調査 (署・センター・森林総合研究所)

(3) 気象モニタリング

- ① 雨量、気温観測
- ② 口永良部島新岳の噴火に伴う降灰植生影響調査 (噴火発生時)

(4) その他

- ① 森林生態系地域等の森林パトロールの実施
- ② シカ対策関連業務、局委託調査協力、有害鳥獣捕獲等

2 普及教育及び森林空間総合利用等

- ① 森林教育等の実施 (他機関等との連携・協力)
- ② 自然休養林内等での指導・パトロールの実施
- ③ 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への助言・指導
- ④ シカ柵の保護管理等

3 その他

- ① 関係機関との連絡調整
- ② 学術調査研究等に係る入林手続き及び指導等
- ③ 広報紙「洋上アルプス」の発行及び年報の作成
- ④ ホームページの更新
- ⑤ 学術論文等のデータベース化
- ⑥ 森林生態系保全教育マニュアル (ヤクスギランド版) の作成

屋久島の森に眠る遺構や人々の記憶 (第4回)

—屋久島の山の価値を考える— 柴崎 茂光 (国立歴史民俗博物館研究部・准教授)

最終回ということで、過去3回の内容も振り返りながら話をしていきます。1993年12月、独特な景観や生態系が評価され、屋久島の山域は世界自然遺産に登録されました。それ以後、「手つかずの自然」に魅了されて、多くの観光客が足を運ぶようになりました。とりわけ縄文杉をエコツアーガイドと一緒に訪問する観光形態はここ20年で定着しました。

しかしわずか半世紀前、屋久島の山域は木材生産の場でした。戦前期には、薪炭、鳥もち生産なども盛んでした。これまであまり議論しませんでした。山域は狩猟の場でもあり

ました。現在世界遺産に登録されている西部林道周辺も、かつてはシカ猟が普通に行われていました。このほかにも、岳参りに代表される島民にとっての信仰の場でもありました(写真1)。屋久島の素晴らしさ(価値)は、自然だけでなく、社会・歴史系のものも含めた複合体として存在しています。しかし、国立公園、生物圏保存地域、世界遺産といった保護地域制度が強化される中で、山域での狩猟や岳参りの行事として行われたヤクシマシャクナゲの採取などは、禁止される方向で進んできました。今後、二酸化炭素の排出削減に貢献するための間伐事業を行う際には、森林軌道や集落跡といった林業遺構の保全・保存に配慮した施業が切に望まれます。

屋久島の素晴らしさ(価値)は多様です。しかし現在の主要な価値である、生態系・生物多様性などばかりに注目されると、その一方でその他の価値(たとえば林業遺構)などが無視・排除される状況が起きていると私は解釈しています(図1)。しかし、屋久島の山域は、現在生きている世代だけのものではありません。百年、千年後の将来世代が、屋久島の多様な価値を享受できるよう現世代はもう少し配慮する必要があります。生態系や生物多様性、地球温暖化防止を重視する考え方が、百年、千年後に現在と同様に重視されているとは限りません。

私の研究対象に照らし合わせるならば、林業遺構群は壊されて

しまえば、復元することはほぼ不可能です。山崩れさえ起きなければ屋久杉よりも長く林内に残る遺構。これらの遺構を適切に保全し、地域の林業教育にも活かされるような管理形態の構築が早急に望まれます。(おわり)



写真1 岳参りの様子 (2014年6月7日、牛床詣所)

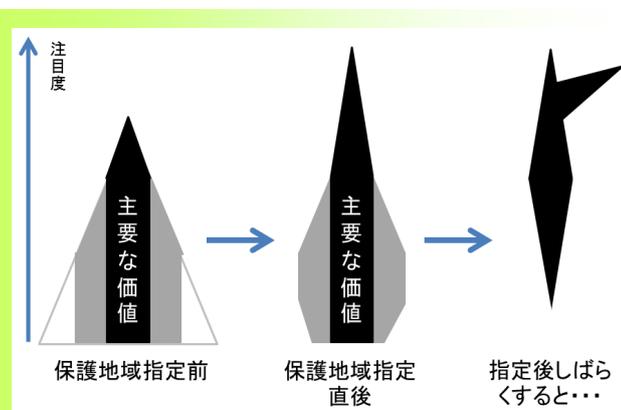


図1 保護地域の指定(登録)と価値の関係

注:色ごとに異なる価値を表す。面積が大きければ、その価値が高く評価されることを意味する。主要な価値は保護林、国立公園、世界遺産などの保護地域指定(登録)の直接的な要因となる価値を表す。

屋久島の植物



センダン (センダン科)

本州中部以南に分布する落葉高木。春、新葉が展開した直後に淡紫色の小さな花がびっしりつく。屋久島では低地で普通に見られる。学校や公民館の庭でシンボルツリーになっている場所もある。栗生神社の巨木は胸高周囲414cm。花期4〜5月、果期11〜1月。



屋久島南部等の植生垂直分布調査（平成25年度）

●標高 1000 ㍍プロット（湯泊歩道沿い）

[高木層] イヌガシ、イスノキ、シキミなどが多く、ウラジロガシ、アカガシ、ヒメシヤラなどが混生。

[亜高木層] サクラツツジが最も多く、シキミ、ヒサカキも多い。イヌガシ、サザンカ、ヤブツバキなどが混生。

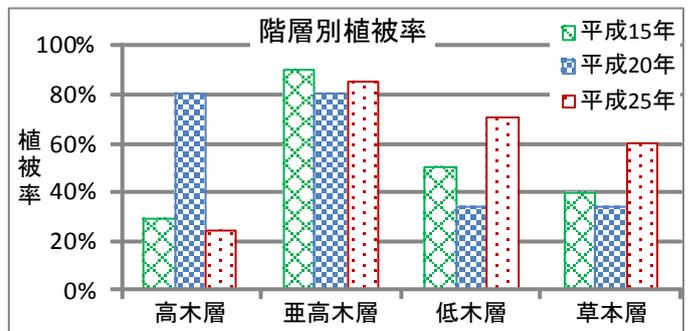
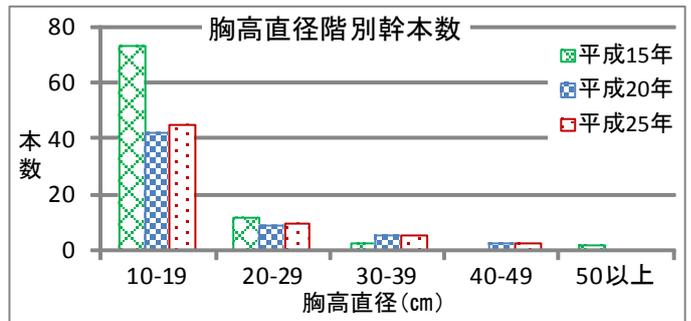
[低木層] サクラツツジが最も多く、ハイノキ、ヒサカキ、シキミ、イヌガシ、サカキも多い。ヤブツバキ、イスノキ、ヤブニッケイ、ホソバタブなどが混生。

[草本層] ヒメトケンラン、シユスランなど前回調査時に確認されているラン類の他、オサラン、カンランなども確認。

[胸高直径階別幹本数] 胸高直径 10-19 cmの本数が平成15年度から20年度にかけて減少したが、自然間引きが起きたことが予想された。旧小プロット内での全体では殆ど変化はなかった。（新規小プロット（10×10 ㍍）を20点増設。旧プロット 10×50 ㍍。）

[階層別植被率] 高木層は平成20年度が80%と高かったが15年度と25年度は殆ど変わらなかった。亜高木層は過年度（15年度及び20年度）と本年度で殆ど変わらなかった。低木層と草本層は、15年度から20年度にかけて低下し、25年度には回復した。

[調査結果の概要] 照葉樹が優占する広葉樹天然林。高木・亜高木のイスノキ・イヌガシ・ウラジロガシ等照葉樹の成長と樹冠うっ閉が顕著であるが、低木・草本層の植被率は前回調査時よりも回復。前回調査時は、希少なラン類やシダ類は岩上樹上でのみ生育していたが、今回は林床でも確認された。



巨樹・著名木 屋久杉

双子杉

双子杉は、一つの切り株から2本の小杉が更新したまだ若い屋久杉です。ヤクスギランドの30分コース沿いにあるため、伐採による世代交代がよくわかる例として多くの観光客が訪れています。

双子杉には、サクラツツジ、シキミ、ヤブニッケイ、ヤマグルマ、サカキ、カクレミノ等が着生しています。

- 樹高：左22.2㍍ 右22.7㍍
- 胸高周囲：左1.7㍍ 右2.1㍍
- 樹齢：不明
- 標高：1010㍍
- 場所：ヤクスギランド30分コース沿い

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)

